

第138期(第2四半期)

株主通信

2017年4月1日～2017年9月30日



CONTENTS

- 1 株主の皆さまへ
- 2 業績の概況
- 3 新コーポレートブランド「TOMOWEL」誕生
- 4 Kyodoトピックス
- 5 営業の概況
- 9 第2四半期 連結財務諸表の概要
- 10 業績の推移(連結)
- 11 株式の状況
- 13 共同印刷グループネットワーク

株主の皆さまへ

株主の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。当第2四半期(累計)の事業概況をご報告申し上げます。

当期の印刷業界は、電子書籍やインターネット広告などのデジタルメディアが好調に推移した一方、紙媒体の印刷需要縮小と競争激化に伴う受注単価の下落により、依然として先行きの不透明な状況が続きました。こうしたなか共同印刷グループは、中期経営方針「強みを活かし事業領域を拡大して利益を創出する」のもと、戦略や体制を適宜見直すなどして環境の変化に柔軟に対応し、業績向上に向け取り組んでまいりました。しかしながら、当第2四半期連結累計期間における業績は、売上高・利益とも前年同期を下回る結果となりました。

海外経済の回復や国内の設備投資の増加、雇用情勢の改善等により景気は緩やかに持ち直すことが期待されています。印刷業界においては、今後も市場環境の変化は激しさを増していくことが予想されますが、当グループは複雑化するビジネスチャンスを的確に捉え、多様化するニーズに確実に対応することで、さらなる成長をめざしてまいります。情報系事業では、高いセキュリティ環境と豊富なノウハウを有するBPO(ビジネス・プロセス・アウトソーシング)を中心に、お客さまの課題解決に向けたトータルソリューション提案を推進して、サービス分野の拡大に努めてまいります。生活・産業資材系事業では、ニーズが高まっている高機能化への対応力を高め、開発をより効率的かつ迅速に行うことで受注拡大を図るとともに、海外への販路拡大にも注力いたします。

創業120周年という節目を迎えた本年、当グループは新たなコーポレートブランド「TOMOWEL」およびコーポレートメッセージ「共にある、未来へ」の導入を決定いたしました。すべてのステークホルダーの皆さまとより良い関係を築き、共に未来を創り拓げていく企業グループでありたいという想いを込めております。株主の皆さまにおかれましては、なお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2017年12月

代表取締役社長 藤森康彰



業績の概況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済対策などにより企業収益や雇用環境が改善し、個人消費も持ち直しの動きをみせるなど、緩やかな回復傾向が続きました。印刷業界におきましては、紙媒体の需要減少や競争激化に伴う受注価格の下落など、厳しい経営環境が続いています。

このような状況のなか、共同印刷グループは中期経営方針「強みを活かし事業領域を拡大して利益を創出する」に基づき、グループ一丸となって業績の向上に取り組みました。情報コミュニケーション部門および情報セキュリティ部門からなる情報系事業では、トータルソリューション提案による販促支援サービスや業務支援サービスの受注拡大をめざし、特に川島ソリューションセンターの機能を生かした提案によってBPOの受注拡大を図りました。生活・産業資材系事業では、軟包装事業の拡大に向け、生産拠点である守谷工場の再編作業を進めました。また東南アジア市場でのチューブ事業の拡大をめざし、ベトナムおよびインドネシアでの拡販に取り組みました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は、442億6千6百万円(前年同期比2.8%減)となり、営業利益は2億4百万円(前年同期比84.0%減)、経常利益は7億6千3百万円(前年同期比58.0%減)となりました。特別利益に政策保有株式の一部売却による投資有価証券売却益41億3千3百万円、特別損失に本社建替えの決議に伴う本社社屋の減損損失および固定資産解体費用引当金繰入額34億4千1百万円を計上したことから、親会社株主に帰属する四半期純利益は6億6千7百万円(前年同期比38.8%減)となりました。

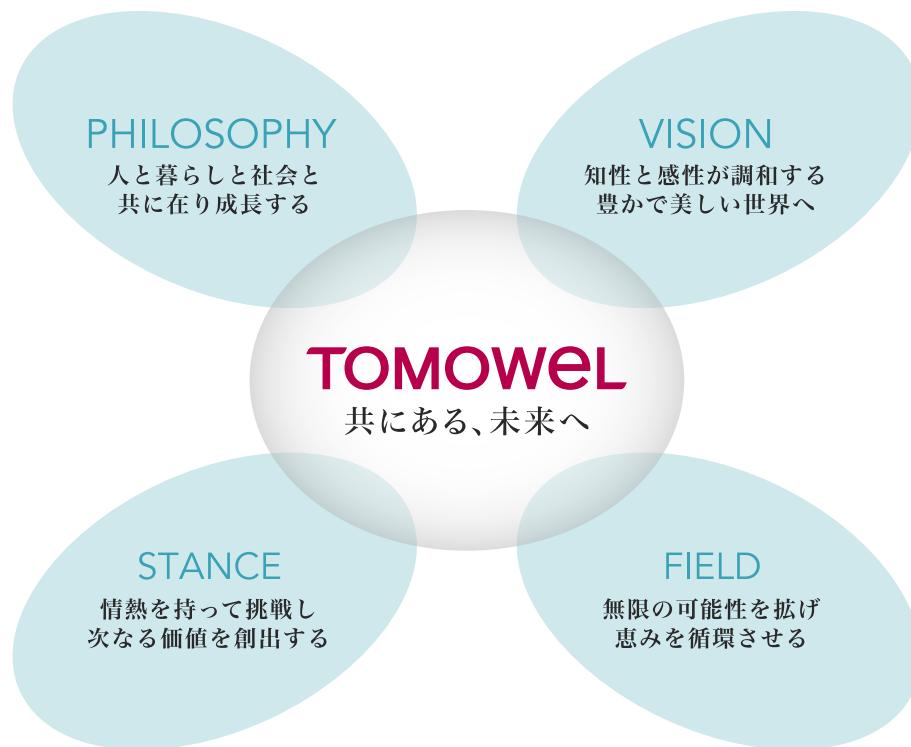
単位:百万円

連結	前第2四半期累計 2016年4月1日から 2016年9月30日まで	当第2四半期累計 2017年4月1日から 2017年9月30日まで	増減率
売上高	45,529	44,266	△2.8%
営業利益	1,276	204	△84.0%
経常利益	1,818	763	△58.0%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,091	667	△38.8%
一株当たりの中間配当金	4円	5円	—

※当第2四半期末配当金(中間配当金)の内訳 普通配当4円 記念配当1円(創業120周年記念)

創業120周年を機に 新コーポレートブランド「TOMOWEL(トモウエル)」が誕生

TOMOWELは、日本語の「とも(共、友、知、智)」と、
英語の「WEL(Wellの古語:良い、満ちる、親しみ)」を合わせて創った言葉です。
「共に良い関係を築く」— 関わるすべてと共に良い関係であり、未来を創り拓げていきたい、
という私たちの想いを込めました。



創業120周年を機に、全社員参加型でCI(コーポレート・アイデンティティ)の再構築を行い、グループ全体を統合する新しいコーポレートブランド「TOMOWEL(トモウエル)」を生み出しました。

私たちは、120年の歩みで培ったステークホルダーとの信頼関係を大切にしながら、TOMOWELに込めた想いを一人ひとりが体現することで健全な成長と発展をめざします。そして、TOMOWELを通じてグループのあるべき姿を発信し、未来への挑戦を続けて、豊かな世界の実現に努めていきます。

コンテスト受賞報告

当社が製造に携わった製品・サービスのなかから、当第2四半期中に賞を受けたものをご紹介します。

第56回ジャパンパッケージコンペティション(JPC)

(一社)日本印刷産業連合会が主催する、市場で販売されているコマーシャル・パッケージの優秀性を競うコンテストです。

「ペヤング チョコレートやきそば ギリ」は、「焼きそばとチョコレートとの組み合わせは意外性があり、パンチがある。“ギリギリチョコレート風”をめざしたパッケージデザインは、十分その意図を達している」と評価されました。

●経済産業省商務情報政策局長賞
まるか食品株式会社/
ペヤング チョコレートやきそば ギリ



●一般社団法人日本印刷産業連合会会長賞
株式会社ハル・インダストリ/
エアソフィア・ハイパー消臭ビーズ
詰め替え用4.0kg



2017日本パッケージングコンテスト

(公社)日本包装技術協会が主催する、包装のデザインからロジスティクスに至るまでの最高峰と優秀群を決定するコンテストです。

「ハンディキューブ®」は、「合理的で、かつ公正適切な包装に優れているもの」として受賞しました。

●適正包装賞
共同印刷株式会社/
ハンディキューブ®



●トイレタリー包装部門賞
株式会社コーセー/
Rose of Heaven FORTUNE Hair Mask

第47回 日本プロモーション・マーケティング協会展 (JPM PROMOTIONAL SOLUTION EXHIBIT)

(一社)日本プロモーション・マーケティング協会が主催する、プロモーション・マーケティングの総合展です。プロモーションの最前線で成果を上げた事例が一堂に会する同展で、売り場を盛り上げた5作品が入賞しました。

●金賞

〈のぼり・立看板・インフレーター部門〉

パナソニック株式会社/メンズブルーミングフロアパネル(写真①)

●銀賞

〈化粧品・カウンター部門〉

株式会社ピエール ファーブル ジャポン/アベンヌ ミルキージェル上置き販売台(写真②)

株式会社ドクターシーラボ/ジェノマー ディスプレイセット(2種1セット)(写真③)

〈生活家電部門〉

コンエアー・ジャパン合同会社/ベビリス ヘアアイロン展示台(写真④)

〈キット部門〉

株式会社コーセー/インフィニティ 店頭演出ツール(写真⑤)



営業の概況

情報コミュニケーション部門

- 定期刊行物
- 書籍
- 一般商業印刷
- 電子出版など



連結売上高 178億8千8百万円
(前年同期比5.7%減)

営業損失 △5億9千4百万円
(前年同期は営業損失
△2億8千5百万円)

出版印刷では、出版市場の縮小が続くなか、マンガを中心としたコンテンツをデジタル展開するデジタルソリューションを推進するとともに、電子書店「ソク読み」の事業拡大に取り組みました。コミックの電子配信は増加したものの、定期刊行物および書籍がともに減少したため、売上高は前年同期を下回りました。

一般商業印刷では、顧客分析やデジタルサイネージ、スマートフォン用アプリなどを組み込んだ販促支援サービスなど、得意先の課題解決につながるトータルソリューション提案を推進しました。その結果、カタログやPOPは増加したものの、情報誌や販促DM、パンフレット類が減少したため、売上高は前年同期を下回りました。

以上の結果、部門全体での売上高は前年同期を下回りました。

出版印刷においては、デジタルコンテンツへの対応力を一層強化し、マンガを中心とした受注拡大に努めます。また「ソク読み」を中心とした配信事業を強化し、電子書籍市場での拡大を図ってまいります。一般商業印刷においては、デジタルサ

イネージやスマートフォンアプリの開発、パーソナルマーケティング分野でのサービス開発などに注力し、これらのメニューに顧客データ分析を組み込んだ販促プランの立案など、各種メニューを組み合わせたトータルソリューション提案の推進によって受注拡大を図ってまいります。



出版印刷



一般商業印刷(カタログ・情報誌など)

TOPICS 越谷工場をグループの物流拠点として再開発

2017年6月、越谷工場(埼玉県越谷市)の新棟建設工事に着手しました。同工場は1968年に金属印刷の工場として竣工し、近年は当グループの共同オフセット株式会社*が運営を担い、出版および一般商業印刷を行っていました。本工事により、印刷に加え、都心へのアクセスに優れた立地を活用したグループの物流拠点としての機能も整備します。

なお、工事中も並行して印刷作業を行うため、工期は2期(Ⅰ期:印刷工場棟、Ⅱ期:物流棟)に分かれ、工事全体の完了は2019年度を予定しています。

*2016年4月に当グループの共同印刷製本株式会社と合併



Ⅰ期・Ⅱ期工事完了後の越谷工場イメージ

情報セキュリティ部門

- ビジネスフォーム
- データプリント
- BPO業務
- 通帳・証券類
- 各種カードなど



連結売上高 144億6千万円
(前年同期比4.7%減)

営業利益 3億7千4百万円
(前年同期比68.2%減)

ビジネスフォーム関連では、データプリントの受注拡大をめざし、マイナンバーに関連する分野や介護・医療に関連した分野を中心にBPO需要の取り込みを図るとともに、川島ソリューションセンターにおいて設備の増設・再配置を実施し生産性向上に取り組ましました。自治体や金融機関からの受注は堅調に推移したものの、マイナンバー関連BPOの受注減や新規案件の受注不足により、売上高は前年同期を下回りました。

証券類は、乗車券類は順調に推移しましたが、抽選券は減少しました。ICカードは、IC乗車券を中心に前年の需要増の反動があり、売上高は前年同期を下回りました。

以上の結果、部門全体での売上高は

前年同期を下回りました。

当部門では、BPOの受注拡大に向け受託体制の強化に取り組んでいます。制度改正等に伴って発生する事務作業の負担軽減に向けて今後もBPO需要は拡大すると予想されており、それへの対応として、川島ソリューションセンターの生産体制強化とBPOの業務設計力の向上に取り組んでいます。機密情報を扱う



ビジネスフォームなど

豊富なノウハウおよび高いセキュリティ体制を生かした提案の推進によってさらなる受注拡大をめざしてまいります。乗車券や宝くじなどの証券類およびICカードでは、生産ラインの合理化による収益力向上を図るとともに、これまでに培ってきた技術力を生かした新製品開発と新規市場の開拓に努めてまいります。



通帳・証券類

TOPICS 金融機関のフィデューシャリー・デューティー取り組み支援を開始

2017年7月、金融機関のフィデューシャリー・デューティー(顧客本位の業務運営)への取り組みを支援するため、専門スキルを持つ外部パートナーとの連携を強化した柔軟なサポート体制を構築しました。情報コミュニケーション分野の研究者などと連携しながら、ユニバーサルデザイン(UD)視点での帳票デザイン、ユーザーモニター調査、読みやすさを客観的に検証したUDフォント「小春良読体[®]」をはじめとするサービスも駆使し、顧客向けパンフレットや申込書などのコミュニケーションツール制作における各金融機関のさまざまなご要望にお応えします。

2017年8月、株式会社イワタから小春良読体[®]のフォント製品を発売しました。



生活・産業資材部門

- 紙器
- 軟包装
- チューブ
- 建材
- 金属印刷
- 高機能製品など



連結売上高 **110億4百万円**
(前年同期比4.5%増)

営業利益 **3億7千9百万円**
(前年同期比27.7%増)

チューブ事業では、歯磨き用チューブのシェア確保に向けて生産体制の強化を図るとともに、国内外における化粧品用チューブの受注拡大をめざしフルプリント仕様やオーバル型チューブの提案を進めました。軟包装事業では、機能性の高いフタ材「パーシャルオープン™」や「Tパウチ」、「ハンディキューブ®」などの液体用包材の提案活動を推進し受注拡大を図りました。「モイストキャッチ®」をはじめとする高機能製品については、医薬品包材向けを中心に提案を進め、新規得意先や新規市場の開拓に取り組みました。

軟包装は、「パーシャルオープン™」や菓子用包材などが減少し、産業資材も、新たな医薬品用包材の受注があったも

のの既存製品の受注減により減少しました。建材製品は前年同期の化粧紙の需要増の反動により減少となりました。チューブは、歯磨き用・化粧品用がともに増加したことに加え、新たに取り組みを進めている食品用でも成果がありました。紙器については、ラップカートンは低調でしたが、共同NPIパッケージ株式会社で受託するティシュカートンにより増加となりました。

以上の結果、部門全体での売上高は前年同期を上回りました。

当部門では、当社が強みを持つ製品の拡販と市場シェア拡大をめざしています。チューブでは、歯磨き用や化粧品用チューブの受注拡大に努めるとともに、

調味料などの食品用チューブの拡販に取り組みでまいります。軟包装については、現在守谷工場に専用棟の建設を進めております。今後国内最新鋭の生産環境を構築し、高機能フィルムとあわせ、安心・安全な包装材料を提供する体制づくりを推進してまいります。



紙器・軟包装・チューブ・金属印刷など

TOPICS 高吸湿性の「モイストキャッチ®アルミPTPシート」を新開発

2017年6月、高機能フィルムの主軸である、湿気・アウトガス吸収フィルム「モイストキャッチ®」を、より具体的な用途に展開した「モイストキャッチ®アルミPTP®シート」(写真)を開発しました。PTPシートに求められる安定した保存性を向上させた製品で、汎用的なスペックのモイストキャッチ®をアルミPTPシートに加工した場合と比較し、約3倍の吸湿能力を確保しています。ポケットの成形性も1.4倍に向上し、より大きな内容物への対応が可能になりました。初出品した「第30回インターフェックス ジャパン」などで、「内容物を長期にわたって乾燥状態で保存できる」と、好評を博しました。

※押し出して取り出す包装形態で、内容物一つずつアルミなどの金属シートやプラスチックで個包装するパッケージのこと。



その他

- 不動産管理
- 物流業務など

売上高構成比



売上高(百万円)



連結売上高 9億1千2百万円
(前年同期比7.6%増)

営業利益 1億3千4百万円
(前年同期比17.6%減)

連結子会社における売上高は、物流業務などの拡大により前年同期を上回りました。



共同物流株式会社

TOPICS 「第10回 共同印刷グループ自然観察会」で、夏の里山を満喫

2017年7月、記念すべき10回目の「自然観察会」をおおいゆめの里(神奈川県足柄上郡)で開催しました。おおいゆめの里は、荒廃しつつある山林を間伐や植樹で身近な里山へと復元させる活動により、動植物の生息場所の保全が続けられている場所です。

参加した社員やその家族51名は、自然観察指導員のもとで夏の里山を彩る植物や昆虫、動物のねぐらなどを観察しました。観察会後には里山の薪で焼き上げるピザづくりを体験し、自然とのつながりを考える貴重な時間を過ごしました。

当グループは、「生物多様性の保全と持続可能な社会づくりへ

貢献するため、すべての企業活動において積極的に行動」することを環境方針の基本理念として掲げています。自然観察会はその一環として2008年に開始したもので、環境意識の啓蒙およびCSRへの関心を実体験から引き出すことを目的としています。今後も、より多くのステークホルダーとコミュニケーションを深めながら、環境を含むCSR活動に取り組んでいきます。



第2四半期 連結財務諸表の概要

前期……………2016年4月1日から2017年3月31日まで
 前第2四半期 ……2016年4月1日から2016年9月30日まで
 当第2四半期 ……2017年4月1日から2017年9月30日まで

単位:百万円 (注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

●連結貸借対照表

	前期末	当第2四半期末
資産の部		
流動資産	50,114	50,809
固定資産	64,466	65,106
有形固定資産	41,220	43,248
無形固定資産	1,465	2,127
投資その他の資産	21,780	19,730
資産合計	114,581	115,915
負債の部		
流動負債	28,245	28,191
固定負債	23,155	25,294
負債合計	51,400	53,486
純資産の部		
株主資本	53,064	53,366
資本金	4,510	4,510
資本剰余金	1,742	1,728
利益剰余金	47,360	47,676
自己株式	△ 548	△ 548
その他の包括利益累計額	10,059	9,013
その他有価証券評価差額金	9,991	9,008
為替換算調整勘定	85	15
退職給付に係る調整累計額	△ 17	△ 11
非支配株主持分	55	50
純資産合計	63,180	62,429
負債純資産合計	114,581	115,915

●連結包括利益計算書

	前第2四半期	当第2四半期
四半期純利益	1,102	650
その他の包括利益	552	△ 1,046
その他有価証券評価差額金	673	△ 983
為替換算調整勘定	△ 165	△ 64
退職給付に係る調整額	66	6
持分法適用会社に対する持分相当額	△ 21	△ 4
四半期包括利益	1,655	△ 395
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,643	△ 379
非支配株主に係る四半期包括利益	11	△ 16

●連結損益計算書

	前第2四半期	当第2四半期
売上高	45,529	44,266
売上原価	37,255	36,827
売上総利益	8,273	7,438
販売費及び一般管理費	6,996	7,233
営業利益	1,276	204
営業外収益	663	729
営業外費用	120	170
経常利益	1,818	763
特別利益	8	4,181
特別損失	234	3,803
税金等調整前四半期純利益	1,593	1,141
法人税等	490	491
四半期純利益	1,102	650
非支配株主に帰属する四半期純利益又は 非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	11	△ 16
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,091	667

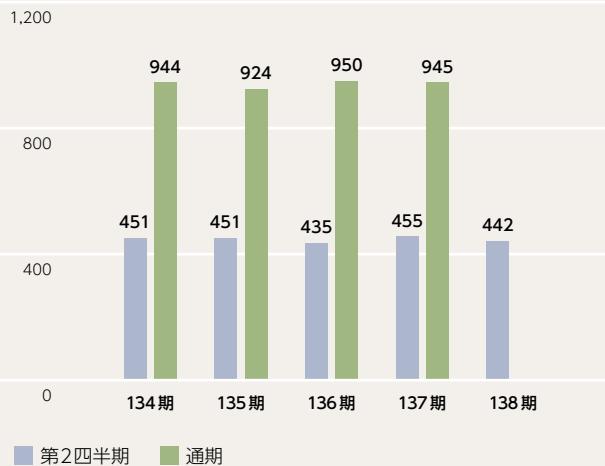
●連結キャッシュ・フロー計算書

	前第2四半期	当第2四半期
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,557	817
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,649	△ 5,467
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 881	△ 1,190
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 18	△ 3
現金及び現金同等物の増減額	△ 992	△ 5,843
現金及び現金同等物の期首残高	14,234	17,414
現金及び現金同等物の四半期末残高	13,242	11,571

業績の推移(連結)

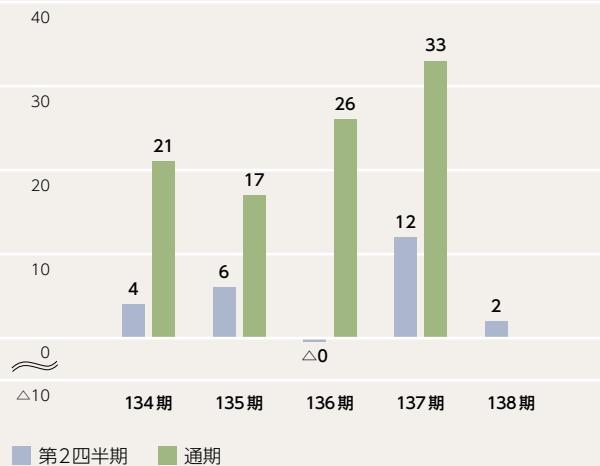
売上高

(億円)



営業利益

(億円)



経常利益

(億円)



親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益

(億円)



株式の状況 (2017年9月30日現在)

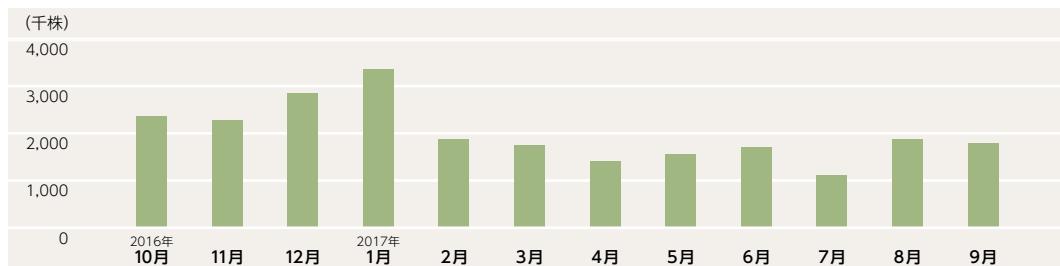
● 株価および売買高の推移 (東京証券取引所)

株価の推移

(終値ベースの高低)



売買高の推移



● 大株主の状況

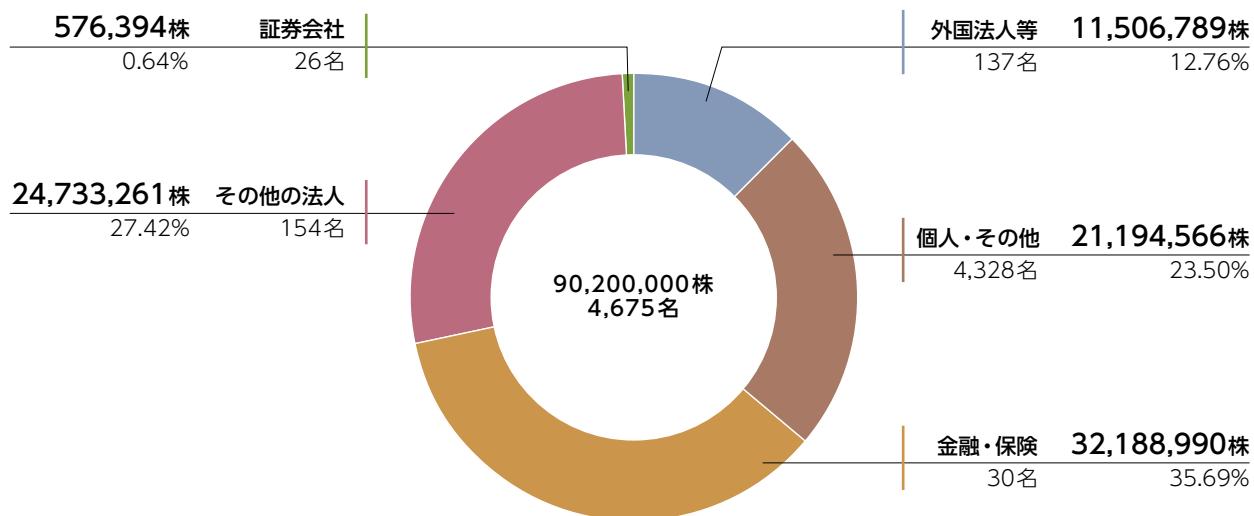
氏名または名称	所有株式数(千株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	13,333	14.78
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (退職給付信託口・DIC株式会社口)	8,541	9.47
東京インキ株式会社	5,830	6.46
株式会社みずほ銀行	2,831	3.14
東洋インキSCホールディングス株式会社	2,169	2.40
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO (常任代理人 シティバンク、エヌ・エイ東京支店)	2,154	2.39
朝日生命保険相互会社	2,000	2.22
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	1,888	2.09
共同印刷従業員持株会	1,760	1.95
三井住友信託銀行株式会社	1,482	1.64

※当社は自己株式2,373,714株を保有しておりますが、上記大株主から除外しています。

●株式の状況

発行可能株式総数	360,800,000株
発行済株式総数	90,200,000株
単元株式数	1,000株
株主数	4,675名

●所有者別株式分布状況(株式数比率)



※2017年6月29日開催の第137期定時株主総会において、株式併合に関する議案(10株を1株に併合し、発行可能株式総数を360,800,000株から36,080,000株に変更)が承認可決されたため、同年10月1日付で、当社の発行済株式総数は9,020,000株となっております。また、当社は同年5月11日開催の取締役会決議により、同年10月1日付で当社の単元株式数を1,000株から100株に変更しております。

共同印刷グループネットワーク

会社商号 共同印刷株式会社 (Kyodo Printing Co., Ltd.)
創業年月日 1897(明治30)年 6月25日
設立年月日 1925(大正14)年12月26日
資本金 45億1千万円
本社 〒112-8501 東京都文京区小石川4-14-12
Tel. 03-3817-2071 (CSR本部コーポレートコミュニケーション部)

●役員紹介

取締役および執行役員

代表取締役社長	藤森 康彰
取締役 常務執行役員	大澤 春雄
取締役 常務執行役員	清水 市司
取締役 常務執行役員	井戸 一喜
取締役 常務執行役員	渡邊 秀典
社外取締役	高岡 美佳
社外取締役	内藤 常男
上席執行役員	今村 敏夫
上席執行役員	里村 憲治
上席執行役員	松崎 広孝
上席執行役員	英 紀一
上席執行役員	石井 啓太
上席執行役員	前川 俊夫
上席執行役員	富井 徹也
執行役員	高橋 孝治
執行役員	仲田 宏治
執行役員	富岡 忠司
執行役員	秋元 秀夫
執行役員	岩田 淳一
執行役員	海江田卓郎

監査役

常勤監査役	小笠原 誠
常勤監査役	宮城 忠雄
社外監査役	公文 敬
社外監査役	徳岡 卓樹 弁護士

●製造工場およびグループ会社

情報コミュニケーション部門

小石川工場
五霞工場
越谷工場
苫小牧工場(株式会社コスモグラフィック)
共同印刷製本株式会社
デジタルカタパルト株式会社

情報セキュリティ部門

鶴ヶ島工場
川島ソリューションセンター
京都工場(共同印刷西日本株式会社)
共同印刷西日本株式会社
共同エフテック株式会社

生活・産業資材部門

守谷第一工場／守谷第二工場
小田原工場
相模原工場
和歌山工場
磯原工場(常磐共同印刷株式会社)
共同NPIパッケージ株式会社
共印商貿(上海)有限公司
KYODO PRINTING (VIETNAM) CO.LTD.
PT Arisu Graphic Prima

その他

共同物流株式会社
共同総業株式会社
共同印刷ビジネスソリューションズ株式会社
(関連会社)
共同製本株式会社
株式会社バイオネット研究所

共同印刷のオリジナル技術「彩美版®」

速水御舟『瓶梅図(へいばいず)』 気品あふれる御舟円熟期の傑作を株主さまだけに特別価格でご案内します

『瓶梅図』に描かれた紅白の梅は、速水御舟がかつて参禅修行した野火止平林寺の境内に咲いていた、御舟にとって思い出深い花です。梅が生けられた壺は、御舟自らが愛蔵する小さな古伊万里の赤絵壺を、堂々とした量感豊かな壺に再構成して描き上げたものです。

『瓶梅図』が描かれた当時の東京は、関東大震災の復興事業を通じてモダン都市へと変貌をとげ、人々の暮らしもまた、伝統と西欧的モダンが融合した新しい様式へと進化しつつありました。『瓶梅図』には生け花という古典的な道具立てを借りながら、近代的な生活感覚が盛り込まれています。

このたび天折の天才画家・御舟の清新な絵画世界を、当社が誇る独自技法「彩美版®」で再現しました。時代を超え今なお斬新な魅力あふれる本作をぜひお手元でご鑑賞ください。今回、期間限定で「株主通信」をご覧の皆さまに、限定特別価格でご案内します。

受付期間:

2017年12月7日から
2018年2月28日まで
期間中本社1Fロビー
に作品を展示します。

彩美版® 速水御舟『瓶梅図』額装 限定200部制作

【仕様体裁】

監修 速水夏彦
技法 彩美版®シルクスクリーン手刷り
(パール・銀・本金一部使用)
※「彩美版®」は、ハンドメイドのよさと最新の画像処理技術を融合させた最高レベルの版画(複製画)技術です。

用紙 版画用紙
縁 金泥仕上げ木製特製額(国産ハンドメイド)、正絹草木織マット(鶯鶯花喰鳥唐草文綴子)、アクリル付き

画寸 天地53.0×左右43.6cm(10号大)
額寸 天地75.0×左右65.6×厚み3.1cm
重量 約3.9kg
原画所蔵 プライベートコレクション



特別価格 139,000円(税込)

希望小売価格 199,800円(税込)

※特別価格は希望小売価格に対する割引後の価格です。

※返品は、商品到着後8日以内、返品送料はご注文者さまご負担をお願いします。

※限定品につき完売となる場合がございます。予めご了承ください。

※「彩美版®」は共同印刷株式会社の登録商標です。

美術をもっと楽しむための
ウェブマガジン

「美術趣味」のご案内

美術
趣味 BIJUTSU
SHUMI

<http://bijutsu-shumi.com/>

こちらのサイトでは、左記の商品のほかにも多数の商品をご紹介します。是非ご覧ください。

< 切りとり線 >

高級美術複製画 注文書

共同印刷株式会社 行

下記のとおり注文します。

作品名 彩美版® 速水御舟『瓶梅図』	金額 139,000円(税込)
ふりがな	
お名前(会社名)	印
TEL	FAX
※お振込名義がご注文者さまと異なる場合は、以下にご記入ください。 ()	
納品先ご住所 〒	
TEL	
※お届け先名がご注文者さまと異なる場合は、以下にご記入ください。 お名前(会社名)	

ご注文方法

左の注文書にご記入の上、FAX送信、または下記住所あてにご郵送ください。

共同印刷株式会社

コーポレートコミュニケーション部 株式担当

〒112-8501 東京都文京区小石川4-14-12

FAX 03-3817-6702 24時間受付

お支払方法(代金前払い/口座振込のみ)

お申し込み受け付け完了後、当社よりお支払方法をご連絡します。商品をご入金を確認次第発送します。

※振込手数料はご注文者さまでご負担ください。送料・梱包料は、当社にて負担します。(海外発送は別途相談)

本件についてのお問い合わせ

コーポレートコミュニケーション部 株式担当

TEL 03-3817-2071

Email koho@kyodoprinting.co.jp

株式のご案内

決算期 3月31日
定時株主総会 毎年6月
株主確定基準日 定時株主総会・期末配当金 3月31日
中間配当金 9月30日
その他必要あるときは予め公告する日
公告方法 電子公告
ただし電子公告による公告ができない場合は、
日本経済新聞に掲載して行います。
公告およびIR情報などを掲載するWebサイト(URL)
<http://www.kyodoprinting.co.jp/>

上場証券取引所 東京証券取引所
株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 〒168-0063
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先 電話0120-782-031(フリーダイヤル)
取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各
支店で行っています。

お知らせ 住所変更、単元未満株式の買取・買増などのお申し出先について

株主さまの口座のある証券会社にお申し出ください。

なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主さまは、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

「配当金計算書」について

配当金お支払いの際にご送付しています「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねています。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。

なお、配当金領収証にて配当金をお受け取りの株主さまにつきましても、配当金のお支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいています。確定申告をされる株主さまは大切に保管ください。

以上